

資料 5

別記様式（第7条関係）

記者会見連絡票

所属部署（生涯学習課）

タイトル
自治公民館活動PR映画『どこまでも屋根の下』の完成と、本作を教材として活用する今後の普及啓発活動について
概要（発表内容を簡単に記入してください。）
<p>さくら市自治公民館連絡協議会とさくら市教育委員会氏家公民館が、共同で自治公民館活動をPRする映画を製作した。『どこまでも屋根の下』という題名の25分間の自主製作映画は市内の自治公民館などで撮影を行い、スタッフ・出演者の全員がさくら市在住者（少数の在勤・在学者のみが例外）。</p> <p>この映画をつくった目的は、これまで地域における「生涯学習」や「家庭教育」「隣近所の助け合い」等において重要な役割を担ってきた自治公民館活動を語る適切な映像作品がなかったためである。そこで市自治公民館連絡協議会と協議会事務局である氏家公民館が協力して、平成28年4月からドラマ仕立ての映画製作（脚本づくり）に取り組み、29年2月と3月に撮影を行い、先日、25分間ハラハラドキドキの劇映画として完成した。</p> <p>完成した映画については、おもに自治公民館で地域住民が話し合うための教材として活用される。映像機材の輸送や現地セッティングについては氏家公民館職員が担当し、フォーラムディスカッションの座長は生涯学習課職員が努める。</p> <p>市民からの出張上映のお申し込み先は、氏家公民館（Tel028-682-1611）。</p>
内容（発表内容のポイントを記入してください。別紙資料でも可能。）
<p>県政記者クラブに加盟している報道機関については、去る4月18日、栃木県県民生活部広報課にお願いして、さくら市自治公民館連絡協議会名でDVD配布を実施した。</p> <p>『どこまでも屋根の下』映画題名の『どこまでも』は合併旧町名『喜連川町』の「どこまでも連なるイメージ」を模し、『屋根の下』も合併旧町名『氏家町』にある「家のイメージ」をヒントにした。主人公家族の早乙女という苗字も喜連川・氏家の両町に共通して存在していた大字地名であり、市の基幹産業である農業に起因する。</p> <p>劇映画のストーリーを紹介すると、「数年前に妻（母）を亡くしたさくら市に住む早乙女弥五郎（父）・さくら（長女）・ほずみ（二女）の三人家族の物語。弥五郎やさくらが一家の母親代わりとして、また地域社会の助けも借りて、がんばって暮らす。さて、そんなある日、踊りが得意な長女のさくらに山向こうの子ども会から、ダンスを教えて欲しいとの要請が届く。さくらだけでなく、一家そろって、山向こうの子ども会に行ってしまう早乙女一家。しかし、そこで、末っ子のほずみが行方不明になってしまう・・・」。</p> <p>早乙女さくら役には、氏家公民館や上松山児童センターのボランティアとして、長年、小学生にダンスを教えていた高校生を起用した。</p> <p>また、全長25分間の上映時間は、テレビの30分番組としても放送された場合を想定している。ご視聴いただき、ぜひテレビ番組等でもご活用いただける場合は、連絡いただきたい。</p> <p>本作はさくら市内での活用が原則である。しかしながら市外での上映等を希望されるケースについては、本作の監督・脚本でもある生涯学習課長に直接連絡願いたい。</p>
本件に関する報道機関からのお問い合わせ先（所属、担当者名、電話番号）
さくら市教育委員会事務局 生涯学習課 Tel028-686-6621